



# 自然の解説者

秋季号 [ 第 73 号 ] 2021 年 10 月 11 日

NPO 法人

ぐんま緑のインタープリター協会紙

事務局：〒371-0103 前橋市富士見町小暮

2425-28 櫻井昭寛方

電話・Fax 0274-42-2726

http://inpuri.web.fc2.com/

編集：総務企画部会

## 利根沼田自然を愛する会の紹介

第 18 期生 濱田 誠

利根沼田自然を愛する会は利根沼田地域を中心に活動している自然保護団体です。玉原高原を『森の博物館 玉原』とよび自然環境センターを拠点に自然観察会等の活動を行っています。会の歴史は古く昭和 30 年から自然調査や伝えるための活動を行っています。

おもな活動は図に示すように 2 つの柱からなります。

### <過去現在のおもな活動内容>

#### ◇玉原湿原を水没から守る

1970 年代に玉原ダム建設が計画され、その内容では湿原が水没してしまうものでありました。この計画を知った会は東電・営林局・沼田市に対して保護運動を進めた結果、東電が設計変更に応じ、ダム堰堤の高さを計画より 16.5m も下げました。東電の大きな譲歩と決断により玉原湿原は水没から免れました。さらに揚水式ダム特有の毎日繰り返される湖水面の上下変動は、湖水に近接する湿原への生態系に影響を及ぼします。そのため、湿原の水位（地下水位）を一定に保つために湖水と湿原の間に堰堤の設置を要求しました。この小規模な堰堤で作られた池を私たちは「調整池」と呼び、感慨深く見守っています。

#### ◇玉原高原のブナ林を伐採から守る


1984 年に沼田市と東急とで第三セクター方式によるスキー場建設が打ち出されました。玉原高原に広がるブナ林は全国でも貴重なもので、動物・植物の宝庫です。スキー場建設計画が進む中、沼田市長・東急と話し合いをし、工事中現場の監視を続けブナ林の破壊を最小限にすることができました。今でもゲレンデ安全整備作業にブナ・ミズナラ等の樹木伐採には合意の上で行いスキー場とその周辺のブナ林は守られています。

#### ◇現在も続く自然保護活動と啓発活動

「玉原月例観察会」は 20 年以上続けられ、尾瀬高校などの学生達の自然保護教育の場にもなっています。「玉原花暦」は会員達連携で毎年 280 種の開花情報を 13 年記録し今も継続しています。「玉原高原散策ポケットガイド」を作成（写真）しました。群馬県立自然史博物館と「カメラトラップ」による動物活動状況の共同調査や官民共同で「外来植物除去」作業を毎年実施しています。

会の主な活動

- 自然を知り親しむ活動**
  - 月例観察会（無料）…5月～11月の第2日曜日10時より  
（玉原自然環境センター前集合、14時頃解散、事前申し込み不要）
  - 夏休み子供自然観察会の実施
  - 会員自主研修会の実施 ●玉原自然環境センターの展示
  - 沼田市の環境フォーラムや文化祭での写真展示、活動発表など
- 自然を守り、子孫に残す活動**
  - 自然環境把握のための調査研究
  - 玉原の環境パトロール ●ブナの幼木移植活動
  - 自然観察ハットブック、ポケットガイド、コースガイドなど啓発資料の作成
  - 木道の設置や盗掘防止の呼びかけ等の保全活動




### 校庭の樹木⑩

### ～有毒だが庭木に適したキョウチクトウ～

顧問 亀井 健一

常緑樹であるキョウチクトウ（夾竹桃）は、冬期も青々とし、背丈があまり高くないことや、真夏の暑さにもめげず、鮮やかな花が咲くので、庭や公園などによく植えられています。校庭で見られることもあります。

あまり知られていないようですが、強力な有毒植物で昆虫に対する防御物質を含み、害虫の被害を受けることがほとんどありません。また、この枝を箸代わりにして食事をした人や枝葉を落ち葉と一緒に燃やし、その煙を吸った人が中毒した例、家畜が葉を食べて中毒死した例などが報告されています。土質を選ばず乾燥や大気汚染に強く、よく生育する丈夫な植物です。枝葉や根に触れた場合は、手をよく洗う必要があります。

本種はキョウチクトウ科の常緑低木～小高木で、高さ 5m ほどになります。原産国はインドや地中海沿岸で、中国を経て江戸時代中期に移入されたということです。株立ちするので、横に広がった樹形になります。葉はふつう 3 個ずつ輪生します。葉身は長さ 6～20cm、幅 1～2cm の狭長楕円形。縁はなめらかで厚く表面は光沢があります。花期は 6～9 月、初夏から秋口にかけて次々と咲きます。園芸品種が多数あり、花の色は白、ピンク、赤など様々です。八重咲きの品種もあります。花冠は直径 4～5cm の高杯形。上部は 5 裂して平開します。花は大変見栄えがよいものです。

和名キョウチクトウは、中国の漢字名「夾竹桃」を日本語読み（音読み）したものです。「夾」には兼ねる意味があり、タケのような葉とモモのような花を兼ね備えた樹木という意味の名です。



花がピンクのキョウチクトウ

**<活動報告>****自然体験事業①「赤城山の自然を体験しよう」** 7月11日(日) 赤城山 受託協力部会

講師：櫻井昭寛、大谷正明、須藤友治。参加者：一般9名、子供3名、協会員22名。親子班は、覚満淵周辺の自然観察とスキー場での昆虫採集をしました。一般班は、覚満淵から長七郎山、小沼のルートでの自然観察を行いました。午後は雷雨になりましたが、たくさんの動植物に出会い、講師の説明により自然への畏敬の念が深まりました。昆虫の特徴や持ち方などの貴重な体験をしました。(中村)

**「大人のための自然教室」開講式** 7月17日(土) 憩いの森・森林学習センター 総務企画部会・普及部会

コロナ禍で、第1回、第2回が中止でしたので、今回が初回で、受講生13名を迎えて開講式を行いました。



理事長からは、自然は人の生活の便利さの向上とは裏腹に、かつてない危機に瀕している。動・植物の多種多様性を理解し、生態系を守るのは現代社会の最大の使命である。この講座でさらに自然への理解が深まる事を期待したい旨の挨拶がありました。(吉田)

**観音山ファミリーパーク子供自然観察会「虫を探そう・ネイチャーゲーム」**

7月17日(土) 県立観音山ファミリーパーク 総務企画部会

講師：杉原隆、茂木由美。参加者：一般39名、協会員9名。杉原講師持参の珍しい動植物を見たり触ったりしてから森に入って昆虫を見つけて観察をしました。ネイチャーゲームでは「動物合わせ」「裸足で歩こう」をして、芝生の山からゴロゴロ転げ落ちるのが楽しい体験でした。(大島)

**前橋市委託事業①「森を歩いて生き物を見つけよう、クラフト楽しもう」** 7月18日(日)

おおさる山乃家 受託協力部会



講師：浦野安孫、小野薫、大澤ひかる、戸丸幸子。参加者：一般27名、協会員9名。参加者が多かったので4班に分かれて活動を行いました。おおさる山乃家周辺の動植物の観察と流木や木の実等の自然の材料を用いてクラフトをしました。大きな蛙に出会ってびっくり!! 植物の名前を考えたりと楽しかったです。また、クラフトは素晴らしい作品ができて大満足でした。(中村)

**自然体験事業②「木工を楽しもう」** 7月25日(日) あかぎ木の家 受託協力部会

講師：吉田卓一、五十嵐由記夫。参加者：一般19名、協会員20名。「キリンさんの筆立て」「貯金箱」「マガジンラック」の3種類を親子で作りました。「ノコギリの使い方が難しかったが、段々にコツを覚えました。」「親子で作りながらたくさんの会話ができて楽しかった。」などの感想がありました。(中村)

**前橋市委託事業②「川に入って生き物を見つけよう、水鉄砲を作って遊ぼう」**

8月1日(日) おおさる山乃家 受託協力部会

講師：須藤友治、田中和夫、吉田卓一、五十嵐由記夫。参加者：28名、協会員8名。人気のある事業で多くの応募がありました。午前中はおおさる川の水生生物を採集し、分類して川の環境についてみんなで考えました。午後は水鉄砲を作り、いろいろな的に当てて楽しみました。普段体験できない水中の生き物探しや水鉄砲作りに親子で時間の経つのも忘れて活動しました。子どもたちの歓声が青空に響きました。(中村)

**会員資質向上研修5「シカ食害対策ネット巻き」** 8月8日(日) 赤城山 総務企画部会

新型コロナウイルス緊急事態宣言中につき中止

**観音山ファミリーパーク自然観察会** 総務企画部会

8月21日(土) 「葉っぱで遊ぼう」 新型コロナウイルス緊急事態宣言中につき中止

9月18日(土) 「森の樹木」 新型コロナウイルス緊急事態宣言中につき中止

**会員資質向上研修2 赤城山自然体験メニュー研修** 8月30日(月) 赤城山 総務企画部会

5月9日に予定していましたが、コロナ対策で1学期に予定していた全ての林間学校が延期となったため、2学期前に協会員21名、児童文化センターから2名が参加して実施しました。ベテラン講師の指導で5つの自然体験学習にチャレンジしました。(櫻井)

**森林整備** インプリの森部会

6月26日(土) 参加者13名。サンデン本体の森除伐作業で21本伐採。

7月10日(土) 参加者8名。14本伐採。

7月24日(土) 参加者10名。13本伐採。

8月21日(土) 参加者5名。9本伐採。緊急事態宣言とクマの出没情報といろいろな気を使う作業となりましたが、当初の計画がほぼ終了しました。

## 緑の窓

## コンパニオンプランツ畑生活

第13期生 櫻井 陽子



34年勤めた仕事を辞めたとき、自然の中で自分の食べる野菜を農薬や化学肥料に頼らず栽培したいと思っていた私は、自宅の前の畑を借りて、「やさしい畑」2013年春準備号を参考に、コンパニオンプランツとハーブや花を組み合わせて野菜作りを始めた。もともと植物には、自分が生き延び子孫をより多く残すため、競合する他の個体や異なる種類の植物を排除しようとする傾向がある。しかし、コンパニオンプランツを混植したり隣植したりすることで、同じ場所で異なる種類の植物が共存してすくすく育つ、らしい。あれから9年になるが、100㎡の畑で毎シーズン25種類以上の野菜が農薬も化学肥料も使わずそこそこ収穫でき、時々近くの直売所に無農薬野菜として出している。

そんな畑は、生き物にとっても居心地のいい場所のようで、緑肥として蒔いたクリムソクローバー、こぼれ種から毎年生える矢車草、カモミール、マリーゴールドなどの花が咲くと、人にとっては害虫益虫が分け隔てなくやってきて、怒ったり逃げたり知らんぷりしたりしながら、花の蜜を吸ったり、野菜をかじったり、卵を産み付けたりする。そこに、幼虫や生ごみを食べるに鳥や野ネズミが来る。オオイヌノフグリ、ホトケノザ、ヘビイチゴ、ナズナ、ハハコグサ、オヒシバ、メヒシバ、エノコログサ…など、野菜に負けず草もたくさん生えてくる。雨あがりには、すごい勢いで伸びている草たちを見ると、私は畑で何を育てようとしているのだろうか？と悩んでしまうこともある。

インプリの活動以外の日は、そんなコンパニオンプランツ畑生活を送っている。人と人もコンパニオンプランツのような存在が一緒になると幸せかもしれない。



## 豆知識

## 雑草の話 22 ユウゲシヨウ

理事長 関端 孝雄

数年前頃から庭の片隅に6月になると小さな雑草達と共にユウゲシヨウが咲くようになりました。気が付くと抜くようにしていたのですが、年を追って生育範囲を広げています。

**ユウゲシヨウ**（夕化粧、アカバナ科マツヨイグサ属、図1）はアカバナユウゲシヨウとも言われ、マツヨイグサの別名です。マツヨイグサ（待宵草）の名を誤ってか「宵待草」にした有名な歌詞がありますが、こちらの方が一般的ようで中々面倒です。マツヨイグサ属は普通夕方開花して朝方にしぼみます。このユウゲシヨウは名前に反して昼間から咲いています。また、日本で生育しているマツヨイグサ属は皆外来種ですが、ユウゲシヨウは米国原産で園芸植物として持ち込まれたものが野生化し分布を拡大しています。なお、ユウゲシヨウはオシロイバナ科のオシロイバナ（白粉花）の別名でもあります。だからアカバナユウゲシヨウと呼ぶ方が良いでしょうが、時に白花のアカバナユウゲシヨウ（図2）を見かけます。これは何と呼べば良いのでしょうか。



図1. ユウゲシヨウ



図3. 花

アカバナユウゲシヨウは多年草で、葉は披針形をしており縁には波状の鋸歯があって互生です。花弁は4個で赤くて丸く、紅色の筋が入っています。雄しべは8個で葯は白。1個の柱頭は白で大きく4つに割れていて目立ちます（図3）。花式は、K(4) C4 A8 G(4)で、8稜が目立つさく果を結びます。花言葉は臆病とのこと、何故なのでしょう。

マツヨイグサ属には、やはり昼に花が咲くのに「月見草」と呼ばれる花があります。**ツキミソウ**は、メマツヨイグサの別名とも言われますが、本来はメキシコ原産の白花を咲かせる2年草です。30数年前に夕方散歩の途中、畑の一角に咲きだしたツキミソウを見て感激したことがあります。それ以来見ていません。

**ヒルザキツキミソウ**（昼咲月見草、図4）と呼ばれる花は月見草に似て昼間に咲くことからこう言われたのでしょうか。別名モモイロヒルザキツキミソウといい、この種も園芸植物として北米から持ち込まれた多年草で、道ばたなどに野生化しています。葉は互生し、線状披針形で浅い鋸歯があり、茎の下方の葉は浅く羽状になっています。花はアカバナユウゲシヨウとほぼ同じ作りですがより大きくピンク色で4個の花弁の基部は黄色を帯びており、蕾の時には下を向いています。



図2. 白いユウゲシヨウ



図4. ヒルザキツキミソウ

## 鳥の全長は？

前回「ものさし鳥のカラス、ハト、ムクドリ、スズメ」の話を書きましたが、これを検証するとちょっとややこしいことになってきます。ものさしの基本となる鳥の全長とはどのようなところを測ったのでしょうか。図1をごらんください。どれでしょうか。立ち姿；足から頭のA、立ち姿；頭から尻尾までのB、それ以外のC。

まず蝶の話です。図鑑に載る美しい蝶は飛んでいたり、翅を休めている翅の様子が繋がった自然状態の翅の姿ではありません。重なる部分が少なく、翅の様子がよく見えるよう翅を押し広げ、無理に動かして固定します。これを展翅と言います。博物学とは自然物についての収集および分類の学問ですが、分類に適した標本作りをします。このことが鳥にも当てはまります。鳥をどのように計測すれば一番分類しやすいかの尺度で測ります。従って立ち姿のような「自然」ではない極めて「不自然な」測り方です。



図1. 全長は？

## 死んだ鳥と生きた鳥

最初の答えはCです。鳥を上向きに寝かせ、嘴から尾羽までを測ります。(図2) これはどう考えても死んで標本にした後の鳥の姿です。そうです博物学は固定された動植物、簡単に言うと『死んだもの』が基本になるのです。こうして図鑑にはこのように計った鳥の全長が記載されています。自然で見るサイズ感と図鑑のサイズはこのように違います。また動く図鑑より大きく感じ、サイズ感がまるで違って見えます。

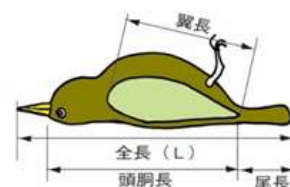


図2. 全長

鳥には嘴と尾があります。この事を考えてみなければなりません。例を挙げます。サンコウチョウのオスの全長は45cmでヒドリガモのメス43cmの全長より長くなります。(図3) ちなみにサンコウチョウのオス(写真はオス)の体重17-22gです。ヒドリガモのメスは360~430gですので体重は1/20になってしまいます。尾羽が長いのでこんなことになります。実は全長だけではサイズが判断できないのです。

私たち緑のインタープリターは自然観察的思考と尺度で、生きた自然を見て、様々な解説をしますが「自然を分析する」博物学は少し違った自然の見方をする自然の分析法なのです。図鑑はどちらかという博物学の書物です。ある意味「自然を見るものさし」が違うのです。そのことを注意してみる必要があります。



図3. ヒドリガモとサンコウチョウ

## &lt;協会の声&gt;

## 第16期生 吉本 順子

高崎市の広報で「観音山ファミリーパーク自然観察会」を知り、初めて参加しました。「ディズニー映画に出てくる魔女」の様な冬芽に出会い自然観察の面白さを知り、その後は毎回のように参加しました。雨の中の観察会もあり晴れた日とは違って見え、こんな経験が出来、ありがたく思いました。自然の中にいるのが好きなだけの私は、皆さんのお話を聞いているだけでいつも面白いです。

8月17日ファミリーパークの植生調査のために集まったが中止になり、雨のなかMさんを先頭にAさんRさん私の4人で観察に歩き出す。芝生の中にマッシュルームに似たキノコがサークルを作っている。「ホコリタケ」だった。長靴のMさんAさんは川の中を歩いて「イワタバコ」の写真を撮りに行き、長靴でなかったことを後悔した。「クサギ」の甘い匂いを楽しんでいたら、Mさんがファンタグレープの匂いのする花があると言う。「クズ」の花のことだった。紫色の花だと知ってはいたが、本当！ファンタグレープの匂いだ。アメリカで作られた飲み物の匂いが日本に昔からある植物の匂いにそっくりなんて不思議だ。「ヤマボウシ」の実も初めて食べた。知識のある人のおかげで思いがけず有意義な時間を過ごすことができました。



行方不明のおむし君

1年前に買ったカメラが取説をよんでも理解できず、今、写真教室で教えを受けています。この青虫は庭のミカンの木にいるのをみつけ被写体になってもらいました。毎日写して記録する予定だったのに、3日でいなくなりました。どうしたのでしょうか。

## &lt;協会が実施する事業・研修会等&gt;

実施日	内容	会場
10月16日(土)	会員資質向上研修3「ネイチャーゲーム研修」	憩いの森・森林学習センター
10月17日(日)	自然体験活動③「秋の赤城山の自然を観察しよう」	赤城山
10月23日(土)	観音山ファミリーパーク自然観察会「タネのはなし」	県立観音山ファミリーパーク
10月23日(土)	森林整備	インプリの森
10月24日(日)	会員資質向上研修6「吾妻渓谷と八ッ場ダム」	吾妻渓谷
11月13日(土)	会員資質向上研修4「榛名山沼ノ原ガイド研修」	榛名山沼ノ原
11月20日(土)	観音山ファミリーパーク自然観察会「紅葉について」	県立観音山ファミリーパーク
12月4日(土)	自然体験活動④「竹炭焼きとクラフト研修」	インプリ広場

<編集後記> 植物を観察していると、余りにも種類があるのに驚いています。いずれも、自分の生存のために進化してきたか、遺伝子の突然変異で変化してきたかでしょう。今感染を広げている新型コロナウイルスの変化も心配です。(宇多川)